

<基本情報>

所在地：福岡県嘉穂郡桂川町

<農場概要>

- 12.5ha（有機JAS認証未取得）
- 有機農法により水稻、各種野菜等を生産
- 労働力8名（古野氏の家族7名、研修生1名）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 学生時代に有吉佐和子著「複合汚染」を読み影響を受け、雑草防除と地力維持に関心を持ち、完全無農薬の有機農業を目指すことにした。有機農業は環境に優しく、健康によい。家族が食べるために作ることが最大の目的であり、同じものを消費者に届けている。

<販売について>

- 基本的に近隣の消費者へ年間契約の直接販売が多いが、そのほかにインターネット販売等も行っている。
- 農業は成長するとともに、維持することが大事であると考え、変化に応じて様々なことに対応しながら、地元の人々に直接販売することを続けて行きたい。



【お問合せ先】TEL.0948-65-2018

ホームページ<http://aigamokazoku.com/index.html>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害、除草対策
水稻については、1988年から開始した「合鴨農法」の体系化を実施することにより、害虫の駆除と除草を行っている。
野菜栽培については、水田輪作による防虫、耐病性の強い品種の作付け、高畝栽培、排水対策を実施することにより病虫害対策を行っている。また、独自に開発した除草農機具（ホウキング）を使用し除草することで、除草時間の大幅な削減を実現している。
- 土づくり
自家製の堆肥（籾殻、鶏ふん、牛ふんを堆肥舎でかくはん・発酵）を使用することで土づくりを行っている。（野菜畑については、10a当たり5tを投入）

このことにより、**慣行栽培と同程度の収量を確保**している。

<苦労しているところ>

- 有機農産物の消費者等への周知。

<今後の対応>

- 地域の農業を引継ぐ者が少なく、農地の管理委託が増え、今後、自分の経営面積は増えると予想されるが、できる限り家族で有機農業を維持していきたい。

<現場の課題>

- 担い手や労働力の確保と地域の活性化。

<その他>

- 有機農法講座を実施しており、昨年は約30名の受講者があった。また、有機農業を志す研修生（1～2名）を毎年受入。

<基本情報>

所在地：福岡県田川郡赤村

<農場概要>

- 2.5ha（**全て有機JAS認証**）
- 水稻、トマト、ミニトマト、セルリー等を生産
生産したトマトを原料に加工品を製造・販売



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 人間・環境に優しい農業の創造とこのような農業を広く社会にアピールし、農業の社会的役割や農業者の社会的地位の向上に貢献すること、地域の生産の核となり地域再生・地域雇用を生み出し地域のモデルとなることを目的として有機栽培を開始。

<販売について>

- 販売する全商品が有機JAS認証品。生産したトマトを使用し加工品（ケチャップ等）を製造・販売も行っている。
- 有機JASの小分業者認証を受け、販売先からの要望に沿った形態で自社包装対応を行い、好評を得ている。
- 販売先はグリーンコープを中心に、イオングループ等約20社と直接取引（販売先への品数・ロットについては、連携を組む生産法人からの仕入れにより確保している）。
- 有機セルリーは、大手スーパーから直接取引のオファーが入るまでになっている。
- 経営管理ソフトを導入し、生産コスト等を管理することで、販売先との価格交渉を実施している。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
病虫害の対策としては、有機農産物にも使用可能なBT剤、土壌改良剤、天敵を使用。
- 雑草対策
施設内ではマルチシート、土壌消毒時に土壌改良剤を合わせて使用することにより雑草の生育を抑止。
- 土づくり
牛糞の使用割合を押さえた堆肥（牛糞2：草8）を使用して土作り。5年程度で病気の減少と**慣行栽培と同程度の収量達成**。

<苦勞しているところ>

- 資材費、運送経費等の抑制。

<現場の課題>

- 資材・人件費等の物流経費高騰への対応。
- 地域の耕作放棄地増加等の荒廃農地対策。

<今後の対応>

- 生産技術体系を確立し、安定的な生産を確立するとともに、次世代へ引き継げる経営の確立。
- 生産規模を拡大し、収益の向上を目指す。（県単事業を活用しハウスを増設予定）

【お問合せ先】TEL.0947-62-3349

会社ホームページ<https://www.toriegoe-network.com/>

有機農業の取組 No.18 株式会社アグリ・コーポレーション 令和4年3月現在

<基本情報>

所在地：長崎県五島市三井楽町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場40ha(かんしょ、大麦、小麦)
- 有機JAS認証のかんしょを加工し、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋等を製造



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 大阪市でコンサルティング会社に勤務し、将来、農業コンサルティングに従事したいと考えていたところ、義理の祖父の出身地である当地で農地を取得したことにより10年前に営農開始。
当初は、農薬や化学肥料を低減した栽培に取り組んでいたが、土づくりや生物多様性保全の取組、他産地との差別化、加工品の付加価値向上などを考えて、**平成30年(2018年)に有機JAS認証取得を開始し、令和2年(2020年)には、全ほ場の有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- かんしょ(青果用及び加工用)は、全国の小売店、飲食店、生協、通販会社、大手コンビニ等へ販売。大麦、小麦は、卸業者に販売。
- 高付加価値化として、かんしょを、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋「おしゃぶー」や小型犬向けの「ワンちゃんのおやつ」、和洋菓子用原料として「かんしょペースト」に自社で製造・販売。

<輸出について>

- 商社と協業し、国内で取引需要が少ないかんしょの規格品(S~2S)を、オーガニック需要が高い香港を中心に輸出。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
自社製造の天然由来の液肥や環境にやさしいBT剤を散布することで、病虫害被害を抑えている。
- 雑草対策
かんしょと麦の輪作を実施。春まで麦を栽培することにより夏季の雑草抑制に繋がり、機械除草の回数を抑えている。
- 土づくり
BLOF理論(生態系調和型農業理論)に基づき3年に1度の土壌診断を行い、必要なミネラル等を施用。
肥料は、有機JAS認定の元肥を中心に、自社製造の肥料を使用。

<苦労しているところ>

- 人口減少により、耕作放棄地が増加。
これまで10haに及ぶ耕作放棄地を再生したが、再生作業以上に苦労したことは、農地の地力向上に時間を要すること。



<今後の展開>

- 五島市三井楽町は、20年間で3割以上人口が減少。
耕作放棄地の解消、移住者・市民が働きたい会社づくり等により地域に貢献し、「オーガニックをプラットフォームとした街づくり」を20年後のビジョンとしている。

【お問合せ先】TEL. 0959-84-2989

ホームページ: <http://osyaburi.jp/index.php>

<基本情報>

所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村

(平成29年度熊本県農業コンクール 優秀賞(地域農力部門)受賞)

<農場概要>

- 自然農法による米(酒造好適米)作りに取組む生産者任意団体
- 令和元年産は16名で山田錦6haを栽培
- 全国の酒造メーカーに出荷し、醸造した酒は阿蘇でも販売



<有機農業に取組むきっかけ>

- 代表(高島和子氏)は、南阿蘇村に移住し自然農法による山田錦の栽培に取組むが醸造に必要な量が確保できず、村内で栽培賛同者を募り、平成19年(2007年)にくらぶを発足。
- 南阿蘇が特別栽培の取組農家が多かったこと、**自然農法への栽培転換による収量減少が少なかった**ことが、賛同者の継続栽培への意欲に繋がる。

<契約・販売について>

- 全量買上げや醸造した酒の地元販売を条件に蔵元と契約。米の販売価格は、会員全員による合同検見の結果に基づき、生産者(会員)ごとに個別に契約。
- 実需者から「**碎米が少なく歩留まりが高い。作柄の影響を受けにくい安定した品質。**」と高評価。好条件での取引を実現。
- 肥料・農薬等の生産資材の購入費が抑えられ、慣行栽培と比較して利益を実感できる。



【お問合せ先】南阿蘇村役場農政課 有機農業推進班
TEL.0967-67-1111

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
無農薬栽培により圃場内に害虫を退治する天敵が生息。
- 雑草対策
除草機(手押し式、動力式)を使った除草。
- 土づくり
収穫後の稲わらを裁断し、土壌に還元。苗箱には土とくん炭のみを使用し、圃場には有機質肥料を含め、肥料を投入しない。

<栽培上の工夫等>

- 強く美しい稲姿を目指し、7月中旬を目安に強めの中干しを行うことで、台風等による倒伏被害も軽微となり、粒ぞろいのいい米が生産できる。

<現場の課題>

- 除草作業を中心に重労働が多く、後継者が育ちにくい。

<今後の対応>

- 自然農法による酒米の高品質な価値を理解してもらえる実需者を掘り起こし、高級酒用原料としての高価格販売を拡大。
- 自然農法に取組む後継生産者の育成及び技術支援。



＜基本情報＞

所在地：熊本県宇城市

（平成28年度環境保全型農業推進コンクール 農林水産大臣賞受賞）

＜農場概要＞

- 経営面積 5 ha で、水稻、野菜類（約30品目）を栽培（米、生姜、里芋、にんにく、露地野菜）



＜有機農業に取組むきっかけ＞

- 昭和45年就農。当初は慣行栽培をしていたが、農薬の使用による身体面への負担を感じたこと。また、農薬の多投入や農産物の外観品質への評価に疑問を持ち始め、有機農業実践者に出会い昭和50年代始めから有機農業に取り組む。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得**

＜理念＞

- いのち・くらし・環境を守る有機農業を推進し、子や孫、次世代につなぐ。

＜販売について＞

- 有機農産物と一目でわかるように、販売するすべての農産物に有機JAS、グリーン農業表示マーク（熊本県のグリーン農業制度）、自社ロゴマークを1枚のシールにして貼付し販売。
- JA系の直売所、くまもと有機の会（生産者主体の産直を行う組織）及び九州内の生協に出荷。



＜病害虫対策・除草対策・土づくり＞

- 病害虫対策
作物の輪作で病害虫の発生を極力少なくする体系づくり。
太陽熱養生処理で土壌の病害虫殺菌処理。
- 雑草対策
黒マルチや太陽熱養生処理で、除草の労働力軽減。
- 土づくり
排水性を良くするため、3～5年おきに客土、深耕、転地返しを実施。
肥料は、有機 J A S に対応したボカシを使用。

＜現場の課題＞

- イノシシやシカの被害の増大
以前から、金網や電気柵を設置しているが、整備が間に合わない。

＜今後の対応＞

- 更なる有機農業の普及を図り有機農産物の安全供給と面的広がりを目指すため、ネットワーク化、新規就農者の育成に取り組む。
- 地域の特産物である「生姜」加工品の生産・販売を拡大する。



【お問合せ先】TEL.0964-43-0234

メール yuk_morita@kuc.biglobe.ne.jp

<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡御船町

<農場概要> 75ha(水稲、にんじん、ばれいしょ、など約100品目)

うち有機 J A S 認証30ha(水稲、にんじん、ばれいしょなど)、構成員50名

<理念> 自然と共に生きる丁寧な暮らしを ひとり一人が実践し、「有機農業生産者、加工者、流通事業者消費者が共に支え合い、自分自身、家族、友人、知人に食べて欲しいものを作り販売すること」をテーマにし、熊本の「有機の基地」をめざして日々の活動に取り組んでまいります。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和51年に有機農業生産者と消費者を結ぶ専門機関「株式会社熊本有機農産流通センター」を設立。その後、有機農業を広く伝える目的で昭和60年に本会が発足。

<有機 J A S 認証に取り組むきっかけ>

顔の見えない消費者へのアピールには第三者が認定した有機 J A S 認証が不可欠のため取得。

<主な販売先>

- 消費者への直接販売（季節の野菜セット）
- ・生協



【お問合せ先】TEL.096-281-7355

HP <https://kumamotoyukinokai.jimdo.com/>

直売所：オーガニックはあと（熊本市東区湖東2-1-3）

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 圃場ごとに土壌分析及び生産物の栄養成分分析を実施し圃場にあった土づくりにより、健全な作物の栽培（セルロースの強化）ができ、病虫害耐性も強くなる。また、「太陽熱養生処理」により土壌物理性の改善（土壌の団粒化・水はけ改善）、秀品率の向上、生物性の改善による病原菌抑制及び雑草の種を熱等で死滅させることで除草作業を殆どしなくてよくなる。

人参の慣行栽培では単収3.5トン、圃場にあった土づくりを実施した場合、単収6トン程の収穫でき、栄養成分では糖度が向上し、硝酸（エグミ）が減少しおいしい農産物が出来る。

<苦労しているところ>

- 異常気象による影響。
- イノシシ・シカ等による鳥獣被害。

<今後の対応>

- 10年後を見据えて生産量確保にむけ、新規就農者・転換者に対して研修会の開催。

<基本情報>

所在地：大分県宇佐市

<農場概要>

- 水稻10ha（すべて有機栽培。うち2haで有機JAS認証を取得）
- 世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域の豊かな環境を保全するために、環境に負荷をかけない自然に沿った米作りに取り組んでいる。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 先代が有機農業を手がけていた頃、台風で周囲の慣行栽培の稲は皆倒伏したが、有機栽培の稲は被害はなかった事など有機栽培の特質を見聞きし、有機農業に関心を持った。
有機栽培での販売価格等について、将来を見据えて試算、経営が成り立つことを確信し、平成15年に就農。
- **平成20年（2008年）有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売する商品は、農薬・肥料を使用しない自然農法で栽培したお米を『しあわせ米』として販売。
- 販売先は、会員を中心に、オーガニックEXPO等のイベントでのマッチング（人脈形成等）を通じて、レストラン等へも販売。
- 販売価格は、**圃場の有機栽培経過年数に応じて差をつけている。**



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
有機圃場には天敵となる昆虫や微生物がいるためか、ウンカやいもち病などは圃場には入って来ない。
- 雑草対策
「あめんぼ号」（水田除草機）で田植え後1週間ごとに3回除草。
- 土づくり
稲藁や自然の堆肥を使用、土を清浄化することを心がけている。

<苦労しているところ>

- 圃場が粘土質のため固く、耕起の時期と方法に苦労する。
- 有機栽培の規模拡大により慣行栽培から転換した圃場は作土が浅く、深耕等で有機栽培に適した圃場にするのに苦労する。

<現場の課題>

- 販路の確保。地域のJAは有機農業への関心が薄いこともあり、乾燥調製から販売まで自社で行っている。

<今後の展望>

- 水稻作付面積を12haまで拡大したい。
- 将来的には地域の50haの圃場を、若手3～4人で有機栽培に取り組むことも検討したい。



【お問合せ先】TEL.0978-33-3265

会社ホームページ <https://siawasemai.com>

<基本情報>

所在地：大分県豊後大野市

<農場概要> 全ての圃場で有機農業を実践

- 水稻1.5ha、麦・大豆0.6ha・・・有機JAS認証を取得
- 野菜0.8ha(約30品目)、かぼす0.3ha



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 高校時代に自然農法の本に出会い、大学は農学部へ。卒業後、青年海外協力隊員としてタンザニアで稲の試験栽培に従事。帰国後、物の多さに疑問を持ち静岡県で有機農業を始めたが、更に豊かな自然環境を求め平成9年に豊後大野市に入植。
- **平成19年(2007年)に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 近隣の有機農業者5名で「むぎわらぼうし」(任意組織)を設立。
販路拡大、供給量の確保、宅配に対応。
- 道の駅等での委託販売。
- 加工品(かぼす果汁、黒米、黒米入りあまざけ等)のインターネット販売。



手押し除草機

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
水稻は、みのる式のポット成苗システムにより、稲の能力を最大限引き出す。
野菜は、入植当初は全滅することもあったが、徐々に圃場の生態系バランスが良くなり、5年～10年で病虫害のない土壌環境ができてきた。
- 雑草対策
合鴨農法
あめんぼ号(水田株間除草機)
手押し除草機
圃場内の雑草を草マルチとして利用
- 土づくり
米ぬか、おから、油かす、落葉や畦草を堆肥化しボカシ肥料として施用。



<苦労しているところ>

- 自然相手なので、病虫害・除草対策と土づくりは永遠のテーマ。
- 除草対策の合鴨が鳶(トビ)による被害を受けている。
- 圃場が分散しているので、農作業や見回り等の手間が掛かる。

<現場の課題>

- 経営面積拡大のためには、新規、大口の販売先を確保する必要がある。

<今後の対応>

- 徐々に経営面積を拡大していきたい。
(好条件の圃場が確保できるかがカギ)



【お問合せ先】

TEL・Fax 0974-42-3501

E-mail ujamaa-farm@d8.dion.ne.jp

<基本情報>

所在地：宮崎県児湯郡西米良村

<農場概要>

有機栽培：水稻：30a、たまねぎ：7a



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 西米良村に嫁いで就農したが、自らが潰瘍を患ったことで、安全・安心な農業に関心を持ち、取り組むようになった。
- 周辺に有機農業者がいないこともあり、**農業専門誌「現代農業」**や他県の有機農家の取組を参考にするなど、独学で学んだ。
- **平成19年（2007年）有機JAS認証を取得**



<販売について>

- 米とたまねぎは、宮崎市内の農産物販売所を中心に有機農産物として販売（2018年の出荷量は、玄米を中心（一部白米）に500Kg程度、たまねぎは250kg程度）。

【お問合せ先】

現在は、問い合わせに対応していません。

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

●（病虫害対策）

- ・ 35度の焼酎、酢（原液で使用）、ニンニク、トウガラシ、EM菌で作った溶液を栽培期間中2回葉面散布。

●（雑草対策）

- ・ 人手で行う。

●（土づくり等）

- ・ EM菌、米ぬか、油かすを使って「ぼかし」を作り、土作りを行い、併せてEM菌を培養した「活性液」を使用。
- ・ 水田へは、わらとボカシをすき込み秋処理する。
- ・ 水田のノロ（アオミドロ）対策は、EM菌を使用。



<苦労しているところ>

- ほ場が分散しており作業効率が悪い。

<現場の課題>

- 有機栽培農家は、除草剤を使用しないことから、使用頻度が高い管理機等の更新に対する助成が必要と思う。
西米良村では、特に高齢化や人手不足が大きな課題。
1村だけでは解決できないので、国・県・村・JAが一体となった対策を要望。

<今後の展開>

- 水田は全部で34a（全14枚）所有しているが、今後も30a位の作付を継続予定。

<基本情報>

所在地：宮崎県えびの市

<農場概要>

- 主食用米約8haのほか、オクラ、カボチャ、ピーマン、キャベツ、ほうれん草等の野菜を約4ha栽培。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 会長の本坊照夫氏が、昭和46年に就農した際、農薬使用が原因と思われる体調不良に陥った経験から、徐々に取組を進め、**昭和58年から本格的に開始。**

<販売について>

- 自宅に隣接する直売所「笑美農(えびの)市場」で、**自社生産の米・野菜のほか、味噌、漬物などの加工品も販売。**また、平成30年5月に、**6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定**を受け、玄米を利用したポン菓子、玄米コーヒーを開発・販売。
- 宮崎県内のスーパー等に、真空パックした米(商品名「笑顔米」)、生鮮野菜、加工品を納品。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土づくりをしっかりと行うことが一番大切。土がよくなると植物体が強くなるため、大きな被害が発生することはない。
- 雑草対策
雑草がまだ小さいうちに、手押し型管理機による早めの畝間中耕を行っている。
- 土づくり
牛糞に、粃殻、海藻、木炭などを混合し、2か月間発酵させた中熟(中心温度40℃程度)堆肥を圃場に撒き、1か月程度土になじませる。

<現在の課題>

- 宮崎県内で有機農業等に取り組んでいる農家が集まって、情報交換などを行う場がないこと。

<苦労しているところ>

- 自社農産物の販売先の確保のほか、除草作業(全作業時間の約半分を占める)、長年試行錯誤を重ねてきた土作り。

<今後の対応>

- 主食用米の販売を伸ばしたい。



【お問合せ先】TEL.0984-33-1610

会社ホームページ <https://motobo-farm.com/>

<基本情報>

所在地：宮崎県児湯郡新富町

<農場概要>

- 経営面積16ha（うち有機JAS及びASIAGAP認証取得5.5ha）
- 有機栽培品目：米、人参、馬鈴薯、ニンニク等
- 従業員：20名（代表役員含め5名、パート15名（増減有））



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 18歳の時、両親の後を継いで営農開始し、30年ほどは慣行栽培で米及びかんしょ等を生産。
このままの営農を継続するか、持続可能な農業を目指していくか悩んだ末、有機栽培を行うこととし、**平成20年（2008年）に有機JAS認証取得。**

<販売について>

- 有機JAS認定ほ場で生産した農産物は、ほぼ関東、関西へ出荷。
右の商品名「宮本」は代表者宮本氏から命名→
- 当社で令和3年8月に有機米を台湾へ輸出したが、即完売。
これを機に、新富町が令和4年以降の台湾での新富町物産展の開催を検討している。



<飲食事業について>

- 有機農産物は全て関東・関西への出荷のため、「どこで買えるのか」との地元の要望があったところに、町が空き店舗での経営者を募集していたため応募し、「有機米農家おにぎり宮本」を開店。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
米のいもち病とカメ虫防除には、有機JASで使用が認められたゼオライトを使用。
- 雑草対策
代かきを3回行い、その後、深水管理することで雑草を抑制。
冬作を行っていない場合は、複数回耕耘し、次年度の雑草抑制。
- 土づくり
有機ほ場は全て水田。野菜と米の輪作（2年3作）体系で、稲わらをすき込むことにより、ほ場に有機物還元。
たい肥は自作でなく、有機JASで使用が認められた豚ふんを施用。

<苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、指導者もおらず栽培技術も未熟で、収量・品質が安定せず収入が少なく、営農継続困難となった。
農業をやめようと考えていた頃、金融機関から融資を受けることが出来、営農を継続するうちに技術確立し、収入が安定し、現在に至る。

<農産物加工品の販売>

- 当社の有機米を使用した「お箸でほぐれるお餅」、「冷めても柔らかいお餅」などの商品開発を県内企業と共同で実施（老人福祉施設向け）。



【お問合せ先】TEL. 090-3609-6496

ホームページ：<https://www.organicfarmzero.com/>